



# 祐介の目

大田ゆうすけ  
(福山市議会議員)

No.29

毎月1日号に掲載

ウの産地として適しており、「山野峡ワイン」の誕生も夢ではないと考えている。

ところで、山野町は3年前より始まった福山市の重点政策「里山里地モデル地域」にも指定された。これも

## 山野町の再生について

私は山野町にある築百年を超える古民家「ゆうすけ山荘」にて、定期的に子供の自然体験教室を開催している。山荘には昔ながらの五右衛門風呂、かまど、ダルマストーブがあり、最近の子供はマッチを擦ることもできないが、火を使わないと生活ができない仕組みになっている。

また、山野峡の清流で川遊びが楽しめるよう、魚を捕まえるための道具を各種揃え、名瀑・龍頭の滝まで遡行できるように沢タビ・ウエットスーツ・ヘルメット等の沢登り道具も揃えている。このようにして山野町の自然を満喫した子供達とその親の中には、山野町に移住を希望する人も現れるかもしれない。

さらに山荘の前の耕作放棄地を開墾してブドウ畑とし、将来的にはワインを造りたいと考えている。山野町は寒暖の差が大きいことから、昔からブド

半信半疑の「やまの里山クラブ」の皆様に私が応募を勧めたところ、市民ポランティアによる里山里地協力隊の協力により次々と耕作放棄地の再生に取り組むことができた。そこで栽培されたソバを使った「長寿飴」を備後特産品研究会が製品化し、飴の袋のQRコードから山野町を紹介するホームページに飛び、山野町の良さを広める事にも繋がっている。

ここまで書けば順風満帆のようであるが、実際には小・中学校の児童生徒数はすでに一桁になっており、存続の危機にある。また医療・介護施設が皆無のため、人口流出も歯止めがかららない。それでもここに集まる協力隊員の姿を見れば、山野町の持つ地域力や魅力が引き寄せているとしか思えない。読書の皆様にも、藻谷浩介氏の「里山資本主義」を読んで、ぜひとも山野町の援軍になっていただきたい。一緒に里山で汗を流し、生きる力を養いたいものである。